

**情報通信審議会 情報通信技術分科会 ITU部会
衛星・科学業務委員会（第4回）
議事概要**

- 1 日時 平成24年8月30日（木）14:00～16:30
- 2 場所 中央合同庁舎2号館 総務省 1階 共用会議室3
- 3 議題
 - (1) 衛星・科学業務委員会（第3回）議事概要について
 - (2) ITU-R SG4関連会合（2012年5月）の報告書（案）について
 - (3) ITU-R SG4関連会合及びSG4会合（2012年9月）への日本寄与文書（案）について
 - (4) ITU-R SG4関連会合及びSG4会合（2012年9月）の外国等寄与文書の審議表（案）について
 - (5) ITU-R SG4関連会合及びSG4会合（2012年9月）の対処方針（案）について
 - (6) ITU-R SG7会合（2012年5月）の報告書（案）について
 - (7) ITU-R SG7関連会合（2012年9月）への日本寄与文書（案）について
 - (8) ITU-R SG7関連会合（2012年9月）の外国等寄与文書の審議表（案）について
 - (9) ITU-R SG7関連会合（2012年9月）の対処方針（案）について
- 4 配付資料
 - 資料 衛・科-4-1 衛星・科学業務委員会（第3回）議事概要(案)
 - 資料 衛・科-4-2 ITU-R SG4関連会合（2012年5月）の報告書(案)
 - 資料 衛・科-4-3 ITU-R SG4関連会合（2012年9月）への日本寄与文書(案)
 - 資料 衛・科-4-4 ITU-R SG4関連会合（2012年9月）の外国等寄与文書の審議表(案)
 - 資料 衛・科-4-5 ITU-R SG4関連会合（2012年9月）の対処方針(案)
 - 資料 衛・科-4-6 ITU-R SG7会合（2012年5月）の報告書(案)
 - 資料 衛・科-4-7 ITU-R SG7関連会合（2012年9月）への日本寄与文書(案)
 - 資料 衛・科-4-8 ITU-R SG7関連会合（2012年9月）の外国等寄与文書の審議表(案)
 - 資料 衛・科-4-9 ITU-R SG7関連会合（2012年9月）の対処方針(案)
 - 参考資料1 衛星・科学業務委員会 関連WG審議報告
 - 参考資料2 ITU-R SG4関連会合（2012年9月）の開催案内（4/LCCE/106）
 - 参考資料3 ITU-R SG4会合（2012年9月）の開催案内（CACE/575）
 - 参考資料4 ITU-R SG7関連会合（2012年9月）の開催案内（7/LCCE/56）
 - 参考資料5 ITU-R SG4関連会合及びSG4会合（2012年9月）の日本代表団一覧（予定）
ITU-R SG7関連会合（2012年9月）の日本代表団一覧（予定）
 - 参考資料6 今後のITU-R SG4及びSG7関連会合の開催予定
 - 参考資料7 衛星・科学業務委員会 構成員名簿（平成24年8月現在）
 - 参考資料8 衛星・科学業務委員会 衛星業務WG 構成員名簿（平成24年8月現在）
 - 参考資料9 衛星・科学業務委員会 時間周波数WG 構成員名簿（平成24年8月現在）

5 出席者（敬称略、順不同）

主 査：加藤 寧（東北大学）

主査代理：井口 俊夫（情報通信研究機構）

構 成 員：藍沢 志津（マルチメディア振興センター）、阿部 宗男（三菱電機）、加保 貴奈（日本電信電話）、小松 大実（スカパーJSAT）、佐藤 祐子（東芝 社会インフラシステム社）、高橋和子（フジテレビジョン）、堂前 光洋（エム・シー・シー）、橋本 明（NTTドコモ）、水島 和代（日本電気）、三谷 政昭（東京電機大学）、森川 容雄（アンリツ）、肆矢 雄三（気象庁）

関 係 者：岩間 司（情報通信研究機構）、大川 貢（情報通信研究機構）、河合 宣行（KDDI）、勘角 幸弘（宇宙航空研究開発機構）、河野 宇博（スカパーJSAT）、鈴木 祥生（航空保安無線システム協会）、花土 ゆう子（情報通信研究機構）、濱崎 隆志（宇宙航空研究開発機構）、福家 直樹（KDDI）、三留 隆宏（日立製作所）、若松 裕史（国土交通省 航空局）

事 務 局：巻口課長、保坂課長補佐、竹下国際係長、桐山国際係官（以上、衛星移動通信課）浅井周波数調整官（電波政策課）

6 議事概要

(1) 衛星・科学業務委員会関連WG審議報告

参考資料1に基づき、衛星業務WGについて阿部委員（衛星業務WG主任）から、時間周波数WGについて森川委員（時間周波数WG主任）からそれぞれ活動報告がなされた。

(2) 衛星・科学業務委員会（第3回）議事概要について

資料 衛・科4-1に基づき、衛星・科学業務委員会第3回会合の議事概要（案）について事務局から説明があり、特段の意見がある場合は、事務局あて連絡を行うこととなった。

(3) ITU-R SG 4関連会合（2012年5月）の報告書（案）について

平成24年5月23日（水）から6月6日（水）まで開催されたWP 4A、WP 4B、WP 4C会合について、資料 衛・科4-2に基づき、出席者を代表して事務局から報告があった。

特段、質疑なし。

(4) ITU-R SG4関連会合及びSG4会合（2012年9月）への日本寄与文書（案）について

WP 4Aへ2件（うち1件はWP4B向けと重複）、WP 4Bへ2件、WP 4Cへ2件、合計5件の日本寄与文書（案）について審議がなされ、5件全ての寄与文書案が承認された。

- WP 4A（放送衛星（BSS）、固定衛星（FSS）の軌道／周波数の有効利用）関係
 - ・ 作業文書への修正提案
RR No. 9.7の周波数調整に関するRR No. 9.41適用時の技術基準（4A/J-1）
資料衛・科4-3-1に基づき、河野氏（スカパーJSAT）より説明があった。
特段、質疑なし。
 - ・ ITU-R新報告草案S.[VSAT] 超小型地球局(VSAT)の利用（4A/J-2）・（4B/J-2）
資料衛・科4-3-2に基づき、河合氏（KDDI）より説明があった。
特段、質疑なし。
- WP 4B（FSS、BSS、MSSのシステム、無線インターフェース、性能及び稼働率の目標）関係
 - ・ ITU-R報告S.2151の改訂案
自然災害や同様の緊急事態における警告及び救援のための固定衛星業務のシステムの利用及び例（4B/J-1）
資料衛・科4-3-3に基づき、福家氏（KDDI）より説明があった。
主なやり取りは、以下のとおり。

橋本 構成員：今回の提案は、全体としてセクション2.6以降を追加するという事で良いか。

福 家 氏：そのとおり。

河 野 氏：2.7セクションが、特に強調された形になっているため、もう少し平たい表現にしてはどうか。

加藤 主査：最後の部分のみ、ブロードバンドが強調されているため、7ページ目のConclusionの3行目にある”absolutely”は削除した方が良いのではないか。

福 家 氏：”absolutely”は削除することとする。
- WP 4C（移動衛星（MSS）の軌道／周波数の有効利用）関係
 - ・ 勧告改訂案 ITU-R M.1787に向けた作業文書の提案（4C/J-1）
資料衛・科4-3-4に基づき、三留氏（日立製作所）より説明があった。
特段、質疑なし。
 - ・ 決議422（WRC-12）に対する作業文書の見直し
1.5/1.6 GHz帯のAMS(R)Sの利用を満足させるAMS(R)S周波数要求量の計算のための一般原則、指針および手法の例（4C/J-2）
資料衛・科4-3-5に基づき、若松氏（国土交通省）より説明が

あった。
特段、質疑なし。

(5) ITU-R SG4関連会合及びSG4会合（2012年9月）の外国等寄与文書の審議表（案）について

平成24年8月30日時点で公表されている外国入力文書の審議表（案）について、資料衛・科4-4に基づき事務局から説明があり、承認された。

(6) ITU-R SG4関連会合（2012年9月）の対処方針（案）について

対処方針（案）について事務局から資料衛・科4-5に基づき説明をし、対処方針（案）に基づき対処することが承認された。

(7) ITU-R SG7会合（2012年5月）の報告書（案）について

平成24年5月8日（火）から5月9日（水）まで開催されたSG7会合について、資料衛・科4-6に基づき、出席者を代表して宇宙航空研究開発機構の濱崎氏から報告があった。

特段、質疑なし。

(8) ITU-R SG7関連会合（2012年9月）への日本寄与文書（案）について

WP 7Aへ1件、WP 7Bへ5件、WP 7Cへ1件、WP 7Dへ1件、合計8件の日本寄与文書（案）について審議がなされ、8件全ての寄与文書案が承認された。

○ WP 7A（時刻信号及び標準電波）関係

・ 日本におけるうるう秒調整の影響（7A/J-1）

資料衛・科4-7-1に基づき、岩間氏（NICT）より説明があった。
主なやり取りは、以下のとおり。

阿部 構成員：本文書は情報文書ということのようだが、そうであれば今回のWP7Aへの提出後は何も残らなくなってしまうが構わないのか。

岩 間 氏：ご指摘を踏まえて修正する。具体的なタイトルについては、事務局と検討することとする。

○ WP 7B（宇宙無線アプリケーション）関係

・ 作業文書提案

7150-7250MHz（宇宙から地球）、8400-8500MHz（地球から宇宙）に提案されているFSSと既存SRS業務との共用（7B/J-1）

資料衛・科4-7-2に基づき、濱崎氏（JAXA）より説明があった。

主なやり取りは、以下のとおり。

阿部 構成員：4ページ目に”deep space”とあるが、”deep space”の定義は何か。

濱 崎 氏：無線通信規則上に定義があり、200万km以上の距離にある宇宙を指す。ただし、地球の引力を使って飛行するものや、はやぶさのようにサンプルを持って帰るミッションなど、いくつかのミッションにおいては、200万km以下の領域も含むこととなる。

小松 構成員：資料番号4-7-2、4-7-4の文書について、それぞれ共用検討を行っており、和文概要では、それぞれ”今後更に検討する必要がある”と結んでいる。ところが、Conclusionsの書きぶりは異なっており、資料番号4-7-2のConclusionsは断定的な書きぶりとなっている。そのため、資料番号4-7-2のConclusionsも資料番号4-7-4の書きぶりに合わせた方が良いのではないか。

濱 崎 氏：資料番号4-7-2のConclusionsを資料番号4-7-4のConclusionsの表現に合わせるように修正を行うこととする。

・ ITU-R Working Party 4Aへのリエゾン提案

7150-7250 MHz（宇宙から地球）および8400-8500 MHz（地球から宇宙）に提案されているFSSと既存のSRS業務との共用（7B/J-2）

資料衛・科4-7-3に基づき、濱崎氏（JAXA）より説明があった。

特段、質疑なし。

・ 作業文書提案

7375-7750 MHz（宇宙から地球）および8025-8400 MHz（地球から宇宙）に提案されているMMSSと既存の科学業務との両立性（7B/J-3）

資料衛・科4-7-4に基づき、濱崎氏（JAXA）より説明があった。

主なやり取りは、以下のとおり。

橋本 構成員：資料番号4-7-4、4-7-5の文書について、タイトルでは”7350-7750MHz 及び 8025-8400MHz”の範囲でのMMSSの新規分配ということになっているが、実際に寄与文書内で検討されているのは”8025-8400MHz”のみである。当該帯域において科学業務と競合するので、文書のタイトルと寄書の内容を一致させた方が良い。

濱 崎 氏：当該帯域は、日本では気象衛星業務に該当するが、使

用しておらず、使用する予定もないため、あえて対象外としているが、寄書の内容とタイトルが整合していないため、タイトルをご指摘のとおり修正する。

河 合 氏：P.1（カバーレター）の最後から2番目のパラグラフからは、この段階で当該文書をWP7Bの外に出すのかどうか不明瞭である。

濱 崎 氏：まだWP4Cから、議題1.9.2に対する作業計画が発出されていないため、作業計画に対応した書き方ができず曖昧な表現となっている。その辺りの表現は見直すこととする。WP7Bでも時期尚早との意見があるかもしれないが、短い期間の中で議論を促進させるため、本文書をWP4Cへリエゾン文書として発出した。

河 合 氏：現時点では、WP7Bの外に出さない方が良く考えるが、出すのであればリエゾン文書を出すことが分かるように明確に書いた方が良く。

濱 崎 氏：了解。WP7Bの議論を反映してリエゾン文書が発出されるように対処する。

・ITU-R Working Party 4Cへのリエゾン提案

7375-7750 MHz（宇宙から地球）および8025-8400 MHz（地球から宇宙）に提案されているMMSSと既存の科学業務との両立性（7B/J-4）

資料衛・科4-7-5に基づき、濱崎氏（JAXA）より説明があった。

主なやり取りは、上記（7B/J-3）で記載しているやりとりのとおり。

・WP 5A および5Cへのリエゾン提案

地球観測衛星業務（地球から宇宙）と既存の地上（および衛星）業務との7-8GHz帯の周波数共用（7B/J-5）

資料衛・科4-7-6に基づき、濱崎氏（JAXA）より説明があった。

主なやり取りは、以下のとおり。

橋本 構成員：周波数割当表上、7145-7235MHz帯においてFS（固定業務）、MS（移動業務）及びSRS（宇宙研究業務）が周波数を共用しており、EESS（地球探査衛星業務）も当該帯域でFS、MS及びSRSと共用してきたという理由から、EESSとこれらの業務が共用する周波数帯を7-8GHz帯全体に拡張しても問題ないということにはならない。この部分を付け加えない方が、全体の論理として成り立つため、3ページ目の5行目から8行目ま

での4行は削除すべきである。

加えて、エディトリアルな修正が数点ある。

- ・ 1ページ目の8行目において、一つの文に”additionally”と”add”が重なるため、”add”を”provide”か”present”とに変更すべきである。
- ・ 2ページ目のAttachmentのタイトル”EESS(earth to Space)～”の、”earth”の頭文字を大文字に、”Space”の頭文字を小文字にし、”EESS(Earth to space)”と修正すべきである。
- ・ 3ページ目の2行目に、”coordination distance”とあるが、Appendix7は、”coordination distance”というよりは”coordination area”一般を扱っているため、Appendix7のタイトルである”by the method for determination of coordination area”とする方が良い。

濱 崎 氏：3ページ目の5行目”Taking into～”からの4行は削除する方向で検討する。また、エディトリアルな修正についても、ご指摘いただいたとおりに修正する。

○ WP 7C（リモートセンシングシステム）関係

- ・ 勧告改訂案 ITU-R RS.1347の提案（7C/J-1）

資料衛・科4-7-7に基づき、勘角氏（JAXA）より説明があった。

特段、質疑なし。

○ WP 7D（電波天文）関係

- ・ 勧告ITU-R RA.1417改訂案（7D/J-1）

資料衛・科4-7-8に基づき、国立天文台の代理として事務局より説明があった。

主なやり取りは、以下のとおり。

橋本 構成員：最終版の文書（Doc. 7/126（Rev.1））からの修正点は何なのか、また、今回の日本からの提案が具体的にどの部分なのか、文書のなかで明確にした方が良いのではないか。

事務局：提案事項と修正部分を、もう少し明確に記載するように国立天文台と調整したい。

(9) ITU-R SG 7関連会合（2012年9月）の外国等寄与文書の審議表（案）について

平成24年8月30日時点で公表されている外国入力文書の審議表（案）について、資料衛・科4-8に基づき事務局から説明があり、承認された。

(10) ITU-R SG 7関連会合（2012年9月）の対処方針（案）について

対処方針（案）について事務局から資料衛・科4-9に基づき説明をし、
対処方針（案）に基づき対処することが承認された。

以上